

「どこでもMY病院」構想に対する患者さんの
意見の例

患者さんの意見の具体例

患者中心の医療とどこでもMY病院 《アイビー千葉(旧あけぼの千葉) 斎藤とし子 代表》

私は25年前に乳がん患い、乳がんの患者会「あけぼの会」に入会しました。5年後にあけぼの会千葉支部長を引き受けて以来、20年間がん患者のサポーターとして関わってきた者として、「どこでもマイ病院」構想に思うところを申し上げます。かつて、医療情報は医療機関のものでした。そこであけぼの会では2001年から「私のカルテ」を会員に配布し、患者自身で治療や薬について記録する運動を続けてきました。治療の記録を正しく残しておくことで、自分の病気をよく理解して賢い患者になり、担当医とのコミュニケーションをよくしたり、自分自身で治療法を選択できるようになることが目的です。しかし、当時は患者が自分のカルテをぜひ見たいと思っても、なかなか医師の協力を得られず、私たちは自分で治療の内容や薬などを「私のカルテ」に記録していきました。やがて医療機関の情報開示が少しずつ進んで行き、血液検査の記録や診療明細もいただけるようになり、今では患者が望めばいつでもカルテを全面開示していただけるまでになりました。乳ガンの手術から再発もなく25年経ちましたが、「私のカルテ」は乳がんの定期検診でも乳がん以外の病気でもとても役に立ちました。

今、千葉県では亀田総合病院を中心に「プラネット」という電子カルテシステムが始動しており、PHR(パーソナル・ヘルス・レコード)で患者情報を管理し、患者が自分のカルテをインターネットで見られます。これなら必要な医療情報が早く確実に見られ、患者が説明しなくてもいいので治療内容も正確に伝わります。残念ながら安房地方限定のネットワークなので、私が住んでいる地域ではうまく利用できませんが、千葉全域に広がるといいと思います。

今後、「どこでもマイ病院」が実現して、こういう医療情報を携帯から見られるようになれば、日本全国どこで具合が悪くなっても安心ですし、カルテの共有、医療連携、電子レセプト、電子処方箋が急速に進むでしょう。これにより、私たちがずっと望んできた患者中心の医療が実現していくのではないかと期待しています。

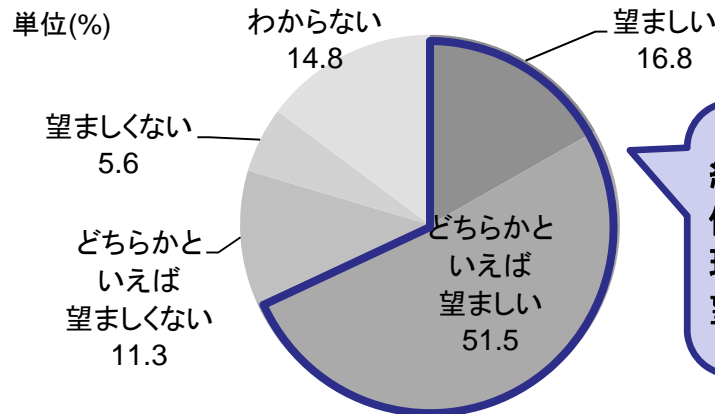
出典:シンポジウム「第2回どこでもMYカルテ研究会」2010年9月30日開催
http://iryokoso-chiba.org/shinpo_myC2_sh.html

患者(個人)ネットアンケート結果：医療健康情報を個人が電子的に蓄積・管理するサービスについて

医療健康情報を個人が電子的に記録・閲覧・管理、活用できるサービスの普及を「望ましい」および「どちらかといえば望ましい」と考えている人の割合は約7割に達している。望ましいと考えている理由では「必要な情報をすぐに取り出せるから」「過去の記録をもとにアドバイスを受けることができるから」が上位となっている。

医療健康情報を個人が電子的に記録・閲覧・管理、活用できるサービスが普及することを望ましいと思うか

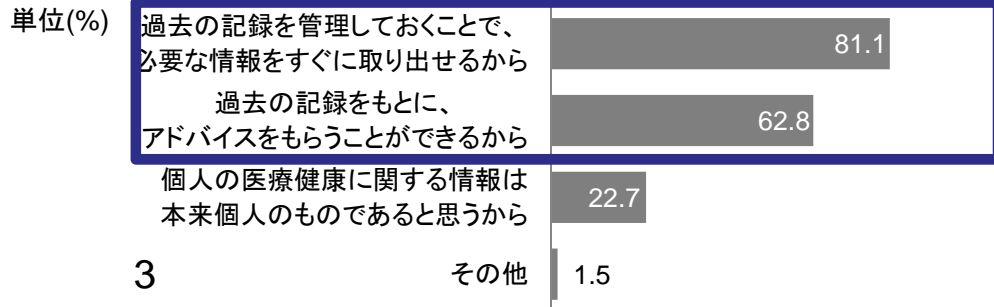
医療健康情報を個人が電子的に記録・閲覧・管理、活用できるこのようなサービスが、普及することを望ましいと思えますか。あなたのお気持ちに最も近いものをお知らせください。(ひとつだけ)【必須】



約7割が医療健康情報を個人が電子的に蓄積・管理するサービスの普及を望ましいと考えている

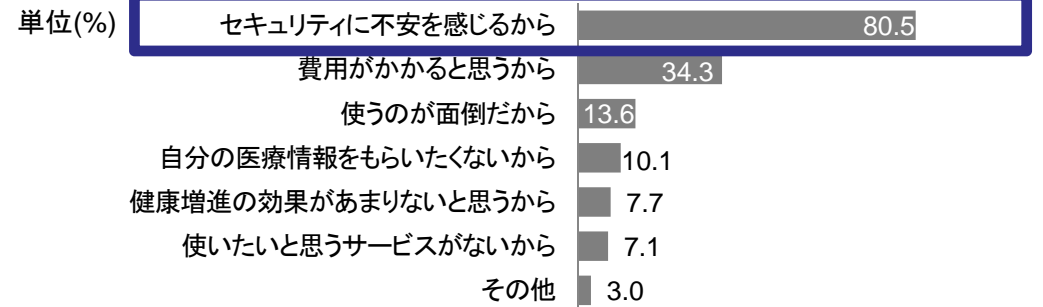
医療健康情報を個人が電子的に記録・閲覧・管理、活用できるサービスが普及することを望ましい・どちらかといえば望ましいと思う理由

なぜ、「望ましい・どちらかといえば望ましい」と考えますか。あてはまるものをすべてお知らせください。(いくつでも)【必須】



医療健康情報を個人が電子的に記録・閲覧・管理、活用できるサービスが普及することを望ましくない・どちらかといえば望ましくないと思う理由

なぜ、「望ましくない・どちらかといえば望ましくない」と考えますか。あてはまるものをすべてお知らせください。(いくつでも)【必須】



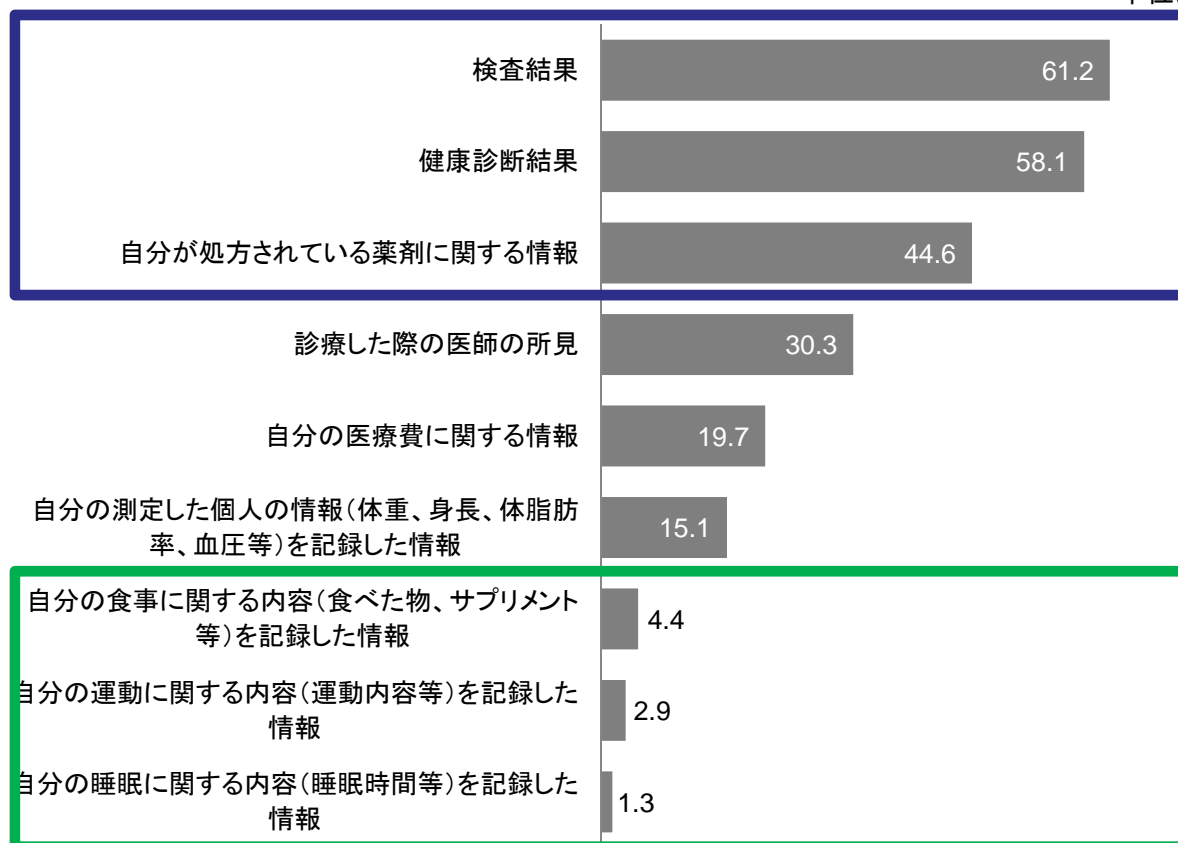
患者(個人)ネットアンケート結果：個人が蓄積・管理したいと思う医療健康情報

個人が蓄積・管理したいと思う医療健康情報としては、「検査結果」「健康診断結果」「薬剤に関する情報」が上位となっている。

記録・閲覧・管理したいと思う医療健康情報

個人がそれぞれの医療健康情報を記録・閲覧・管理し、サービス提供者に自分の医療健康情報を渡すことができるようになると、様々な方法で活用できるようになります。以下の医療健康情報で、記録・閲覧・管理したいと思う情報を3つまでお知らせください。(3つまで)【必須】

- 1.検査結果
- 2.健康診断結果
- 3.診療した際の医師の所見
- 4.自分が処方されている薬剤に関する情報
- 5.自分の医療費に関する情報
- 6.自分の食事に関する内容(食べた物、サプリメント等)を記録した情報
- 7.自分の運動に関する内容(運動内容等)を記録した情報
- 8.自分の睡眠に関する内容(睡眠時間等)を記録した情報
- 9.自分の測定した個人の情報(体重、身長、体脂肪率、血圧等)を記録した情報
- 10.妊娠中の経過、乳幼児健診、予防接種等の母子の健康に関する情報
- 11.記録・閲覧・管理したい情報はない



約6割が「検査結果」、「健康診断結果」を、約4割が「自分が処方されている薬剤に関する情報」を記録・閲覧・管理したいと思っている

自分で測定する健康に関するデータに対する利用意向は低い。

患者(個人)ネットアンケート結果:個人の属性別の医療健康情報ニーズの違い

医療健康情報に対する個人のニーズを属性別に見ると、疾病経験のない人では「健康診断結果」の順位が1位となっており、疾病経験ありの人では疾病経験なしの人に比べて「検査結果」「薬剤に関する情報」「診療した際の医師の所見」といった医療情報に対するニーズのパーセンテージが10ポイント程度高い。さらに、疾病別に特徴を見ると、疾病経験ありの全体の平均と比較して、「がん」患者において「薬剤に関する情報」、「医師の所見」の順位が相対的に高く、「精神疾患」患者において「薬剤に関する情報」の順位が相対的に高くなっている。

【疾病経験の有無の比較】

記録・閲覧・管理したいと思う医療健康情報

疾病経験なし(N=653) 疾病経験あり(N=347)

健康診断結果	58.5%	検査結果	68.3%
検査結果	57.4%	健康診断結果	57.3%
自分が処方されている薬剤に関する情報	41.0%	自分が処方されている薬剤に関する情報	51.3%
診療した際の医師の所見	27.0%	診療した際の医師の所見	36.6%

個人がそれぞれの医療健康情報を記録・閲覧・管理し、サービス提供者に自分の医療健康情報を渡すことができるようになります、
様々な方法で活用できるようになります。

以下の医療健康情報で、記録・閲覧・管理したいと思う情報を3つまでお知らせください。(3つまで)【必須】

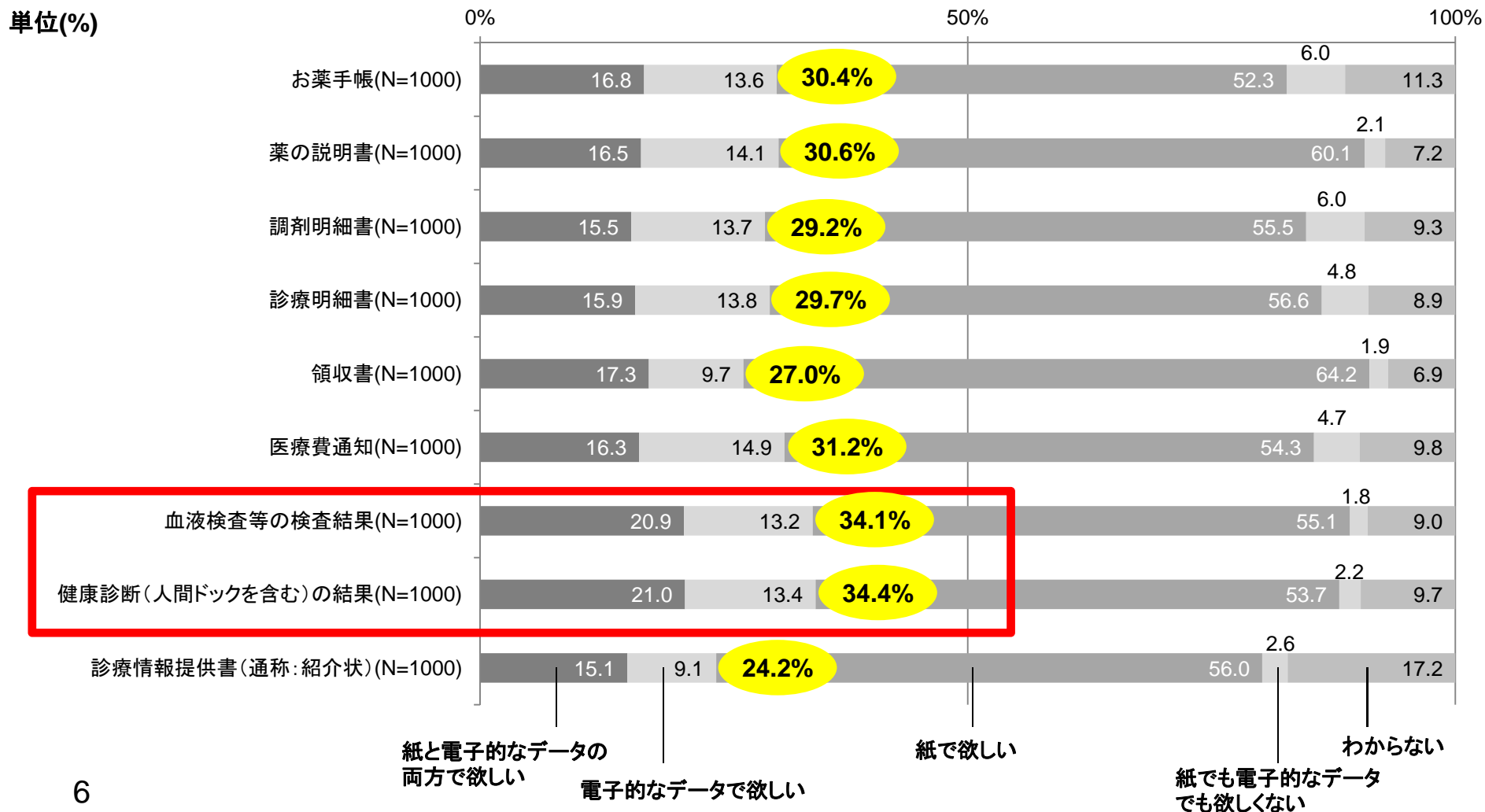
- 1.検査結果
- 2.健康診断結果
- 3.診療した際の医師の所見
- 4.自分が処方されている薬剤に関する情報
- 5.自分の医療費に関する情報
- 6.自分の食事に関する内容(食べた物、サプリメント等)を記録した情報
- 7.自分の運動に関する内容(運動内容等)を記録した情報
- 8.自分の睡眠に関する内容(睡眠時間等)を記録した情報
- 9.自分の測定した個人の情報(体重、身長、体脂肪率、血圧等)を記録した情報
- 10.妊娠中の経過、乳幼児健診、予防接種等の母子の健康に関する情報
- 11.記録・閲覧・管理したい情報はない

【疾病別の比較】 ※患者には過去の疾病経験者を含む

	高血圧(N=135)	高脂血症(N=95)	糖尿病(N=34)	がん(N=36)	心疾患(N=31)	精神疾患(N=43)
1位	検査結果 (69.6%)	検査結果 (63.2%)	検査結果 (76.5%)	検査結果 (72.2%)	検査結果 (61.3%)	検査結果 (67.4%)
2位	健康診断結果 (59.3%)	健康診断結果 (53.7%)	健康診断結果 (50.0%)	自分が処方されている薬剤に関する情報 (61.1%)	健康診断結果 (54.8%)	自分が処方されている薬剤に関する情報 (53.5%)
3位	自分が処方されている薬剤に関する情報 (50.4%)	自分が処方されている薬剤に関する情報 (53.7%)	自分が処方されている薬剤に関する情報 (41.2%)	診療した際の医師の所見 (44.4%)	自分が処方されている薬剤に関する情報 (45.2%)	健康診断結果 (46.5%)
4位	診療した際の医師の所見 (37.0%)	診療した際の医師の所見 (33.7%)	診療した際の医師の所見 (41.2%)	健康診断結果 (41.7%)	診療した際の医師の所見 (41.9%)	診療した際の医師の所見 (27.9%)

患者(個人)ネットアンケート結果: 電子的データで受け取ることに對するニーズ①

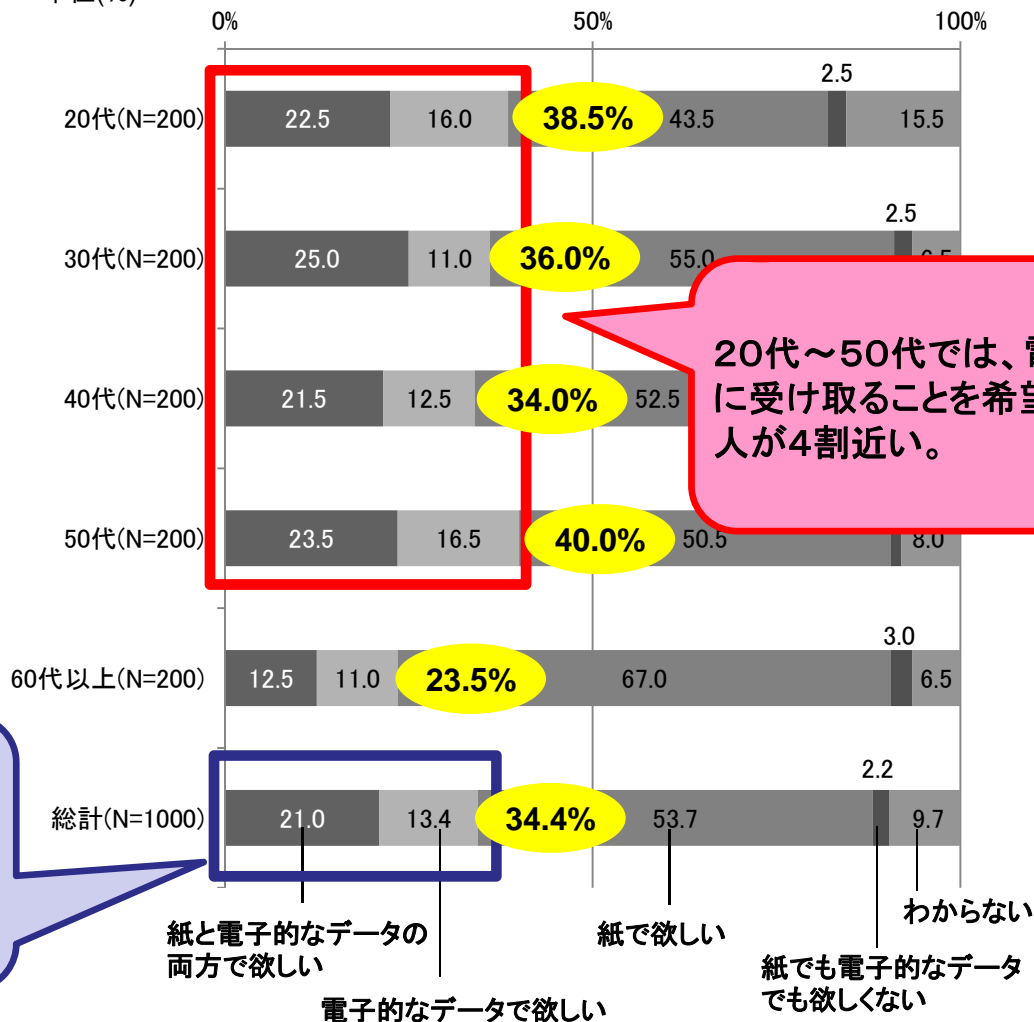
医療機関等から受け取りたい電子的データの中では「健康診断結果」、「検査結果」のニーズが相対的に高い。



患者(個人)ネットアンケート結果: 電子的データで受け取ることにするニーズ②

健康診断結果を電子的データで受け取りたい者を世代別に見ると、20代~50代では4割近い。

健康診断結果を紙で欲しいか電子的なデータで欲しいか
単位(%)



20代~50代では、電子的に受け取ることを希望する人が4割近い。

35%ほどの人が医療健康情報を電子的データで受け取ることを希望している(健診結果の場合)

調査概要

- 調査名 : 医療健康情報の活用サービスに関するアンケート
- 実施方法 : インターネットの登録モニターに対するアンケート方式
(TrueNaviインターネットリサーチ)
- 調査期間 : 2011年2月17日(木)～18日(金)、23日(水)～28日(月)(追加調査)
- 回収サンプル数 : 1000(サンプル数内訳)

性・年代	回答数	%
1.男性20代	100	10.0
2.男性30代	100	10.0
3.男性40代	100	10.0
4.男性50代	100	10.0
5.男性60代以上	100	10.0
6.女性20代	100	10.0
7.女性30代	100	10.0
8.女性40代	100	10.0
9.女性50代	100	10.0
10.女性60代以上	100	10.0
合計値	1,000	100.0

地域	回答数	%
1.北海道	40	4.0
2.東北	44	4.4
3.北関東	42	4.2
4.東京	164	16.4
5.南関東	205	20.5
6.甲信越	24	2.4
7.北陸	19	1.9
8.東海	112	11.2
9.近畿	198	19.8
10.中国	53	5.3
11.四国	24	2.4
12.九州・沖縄	75	7.5
13.その他	0	0.0
合計値(N値)	1,000	100.0

※内閣官房IT担当室が外部調査会社に委託して実施